

2021年度 佐賀西部コロニー 事業実績報告書

1. 法人運営に関するもの

本年度も、職員に対して公私ともに行動の自粛を依頼し、更にやむを得ず県外など感染リスクが高い交流があった場合は1週間の出勤停止や抗原検査による検査などを実施し、感染予防対策の徹底に取り組んできた。また希望した職員、利用者様に対して3回目のワクチン接種も完了している。

税務管理指導においても、昨年度に引き続き ZOOM による Web 会議を活用するなど、コロナ禍であっても透明性のある財務管理を進めることができた。8月に発生した豪雨により白石作業所が床上浸水の被害を受けたが、保険給付費を受け改修を行っている。

施設整備については、多良岳福祉園新築工事検討委員会を立上げ、4回にわたり検討を進め、3月には設計業者が決定し、新年度に向け具体的な検討を進めることができた。

これまで経営理念「互譲互助」のもと職場改善に取り組んできたが、こうしたことが、鹿島ハローワーク管轄で初となる若者の働きやすい職場「ユースエール企業」、更には佐賀県で初となる障害のある方の働きやすい職場「もにす企業」の認定を受け、佐賀労働局長より、認定証の交付を頂いている

なお 本年度も処遇改善特定加算を受給し、規程を整備し、対象職員へ3月に特別一時金の支給も行っている。

2. 福祉事業活動

コロナ禍において本年度も法人行事を自粛しなければならない年となった。特に全日本カブト虫相撲大会については感染症予防対策が困難であり、本年度も中止し、第37回夏休みの昆虫教室として「みんなで昆虫図鑑をつくろう！」を開催し、354人の子供たちからのカブトムシに関するたくさんのお情報をもらい、昆虫図鑑を製作することができた。

また、運動会や勤労感謝の会の開催もできない状況であったが、各事業所の創意工夫で様々な活動を行い、利用者様に喜んでいただいている。

3. 就労事業活動

就労支援事業においては各施設とも厳しい状況となった。こうした中で太良町役場からの提案で佐賀県障害者週間の一環として太良町役場前にて、佐賀西部コロニーの商品販売や障害者理解への啓蒙活動を行うことができた。特に海水さつま芋においてはその後の反響も続き、多くの方から美味しかったとの喜びの声をいただいている。

2021年度 昆虫の里 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、感染状況に応じて福祉及び就労活動に制限するなど注視しながら行動する年になった。そんな状況下でも社会活動の活発化に伴い「佐賀さいこうフェス」販売会への出店や、年末には感染者数が減少したことなどから「海水みかん祭り」を小規模ながらも、収穫祭に代わるイベントとして実施できたことは来年度につながる明るい話題となった。

また SAGA2024 国スポ、全障スポを2年後に控え、カウントダウン電光掲示板や、横断幕、懸垂幕、のぼり旗など広報関連の受注が増えた。

利用者様の処遇に関しては高齢化や健康維持の課題と並行に、意向を重視しながら個別支援計画書に基づき、ひとりひとりにあった細かな支援を行った。

職員の資質向上については、パソコンによる Web 研修を主体とし「虐待防止・権利擁護」研修においては全職員ビデオ研修受講を義務化するなど、障害福祉サービス事業所の職員としての知識向上とスキルアップに努めた。

(2) 施設利用者様の豊かな人格形成

新型コロナウイルスの影響で常に制限付きの活動が強いられた。そんな中でも衛生対策の確保を図り配送納品や販売活動などに参加し、顧客と交流が出来た。夏には昆虫の里で初のスポーツ大会を山茶花高原の芝生公園を貸切り、グランドゴルフを開催した。利用者様が青空の下で久しぶりに大声を出し、走り回って楽しむことが出来た。

(3) 快適な質の高い施設づくり

利用者様個々に合わせた支援を目指し、佐賀西部ホームと連携して支援にあたった。また偶数月第1土曜日を環境整備の日として施設内の環境美化に取り組んだ。

(4) 働き甲斐のある施設づくり

朝礼時は毎日ラジオ体操を実施し、皆で「私たちの誓い」を復唱し、明るく元気に笑顔で一日のスタートができるように取り組んだ。

作業時には安全配慮と整理整頓を心がけ、けがのない安全で明るい作業場の環境づくりに努めた。

2. 福祉事業活動

本年度7月より定員30名から35名へ増員し事業の活動を進める。利用者様は12月末に1人退所、3月に1人利用開始され増減なしの38名が現員である。障害福祉サービス事業収入は、83,125千円と昨年より5,597千円の増収となった。施設整備については厨房内のエアコンを増設し、園芸部門のブルモア草刈機の導入や、印刷部門はのぼり旗用インクジェットプリンターを更新した。

また昆虫工場2Fへの橋梁工事や、集会所北側に排水路工事を施設工事として訓練の一環でおこなった。

3. 就労支援事業活動

今年度の木工部門は家具製品や特注品を主体に製作し、ペンションのウッドデッキ改修工事を行うなど多種多様な商品づくりを行った。施設工事についても訓練指導で出来る案件については整備を進め更新を図った。園芸部門は海水みかんが主体であり贈答用商品で差別化を図るなど付加価値を付け販売を行った。湯がきタケノコや黒ニンニク、菌床きくらげは、売れ行き好調であり更なる販路拡大を目指す。印刷部門については SAGA2024 国スポ・全障スポのイベント広報関連品が増えたり、経済の活性化と共に一般店舗からの受注が増えるなど来年度に向けた明るい兆しが見えた。就労支援事業収入は前年度より2,122千円増の31,817千円だが経費等支出がかかり昨年に続き厳しい決算となった。

利用者工賃については、昨年度比2,781円減額の一人当たり月平均31,783円を支給し2021年度の目標工賃を達成することはできなかった。

部門別の実績については、下記のとおりである。

	2021年度 (千円)	2020年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
木工部門収入	11,885	11,677	208	101.8
園芸部門収入	10,401	10,266	135	101.3
印刷部門収入	9,530	7,751	1,779	123.0
合計	31,817	29,695	2,122	107.1
一人当たり工賃	(円/月) 31,783	(円/月) 34,564	▲2,781	92.0

2021年度 佐賀西部ホーム 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) グループホーム運営について

本年度も新型コロナウイルス感染症対策を重視すると共に、利用者様の様々な活動に制限をお願いする1年になった。生活支援員、世話人の衛生対策は日々の日課であり、特に共有スペースは重点箇所として消毒等を実施した。感染者数の高止まりが続き、病院受診や買い物などの外出については、職員の送迎支援が増えるなど目まぐるしい日々が続いた。大多数の方が帰省できないなど、ホームで楽しく過ごしてもらうために生活面の充実を図り、各棟に分かれてクッキング教室の機会を増やし、利用者様自身でハンバーグやカレーライス、お好み焼きなど昼食時を兼ねて作り食事会を実施しました。更に定期的にカラオケ会を小グループで行うなど、日々の楽しみを増やし満足度を高めてもらった。6月には防火避難訓練及び水防法に基づいて大浦校区の指定避難場所まで移動訓練を実施しました。職員の資質向上については、パソコンによる Web 研修を主体とし、「虐待防止・権利擁護」研修においては全職員ビデオ研修受講を義務化にするなど、障害福祉サービス事業所の職員としての知識向上とスキルアップに努めた。

(2) グループホーム利用者様の豊かな人格形成

今年度も、法人全体のイベントは中止となりましたが、佐賀西部ホームでは太良町からの振興券を利用し飲食店の部屋を貸切っての食事会や、刺身などが入った特製お弁当をお取寄せしたり、また夏祭りやバーベキューを実施するなど季節に応じたイベントを体験してもらった。定期的に食事会、買い物支援など余暇活動を計画する事で、地域社会と交流を図りながら皆さんが、コロナ禍でも楽しい生活が送れる支援に努めた。

(3) 快適な質の高いグループホームづくり

昆虫の里との連携を図りながら、施設環境整備の向上を目指し、偶数月第3土曜日を環境整備の日としてホーム内外の清掃を行い、整理整頓の行き届いたホームづくりを行った。また細かい部分については定期的に支援員にて清掃及び衛生対策を行った。

(4) 喜び溢れるグループホームづくり

安心して生活できる生活環境の向上を図り、活力ある明るいホームづくりに努めた。月一回は互助会会議を通じて利用者の皆さんの意見を尊重し、自主的に取り組まれることはやらせてみて出来ないところを支援するように取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度の利用者数は1月に1名の退所、3月に1名の利用開始があり増減なしの28名の現員である。福祉事業活動収入は50,342千円と前年より、1,555千円の増収となった。なお利用者様の支援については、個別支援計画に基づき生活支援員・世話人が主体となり本人の意思を尊重して支援にあたった。

2021年度 多良岳福祉園 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

本年度は、新型コロナウイルス禍の2年目を迎え、感染症予防対策と共に歩む1年であった。特に2月には新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画BCPを策定した。感染者発生時には、昨年度に緊急包括交付金により購入した感染症対策用プレハブと集会場を活用したゾーンニング対策も想定し、対策に付随するプレハブ下屋工事や館内の自主放送設備などを整備した。

こうした整備と合せ、利用者様には安全な生活を送るため、時間差による食事の提供や買い物など施設外の行動制限など継続して協力をさせていただいた。また本年度はオリンピック開催の年であったため、8月の夏季休暇を7月に変更するなど、感染拡大へと繋がる大型連休は、感染リスクの軽減を図るため家族様のご協力をいただいたきながら実施している。

今年度 太良町役場からの提案により、佐賀県障害者週間に合わせて販売会と啓蒙活動を実施することができ、利用者様の社会参加への発信を行う事ができた。

(2) 施設利用者の豊かな人格形成

町内でもコロナの感染の報告があるなど、高水準で感染が拡大する中で、本年度も施設旅行や勤労感謝の会など法人行事や施設外での余暇活動を全面的に自粛せざるを得ない状態であったが、感染状況と予防対策の体制を整えながら買い物研修や施設内でのレクリエーション大会などを実施し、利用者様の安全を確保しながら楽しめるよう、様々な活動に取り組んだ。

(3) 快適な質の高い施設づくり

多良岳福祉園の建替に向けて、現状確認や暮らしやすい施設づくりの検討を進める1年であった。特に近年に建替を行った福岡県の蓮の実団地、蓮の実園への視察を行い、利用者様のより良い生活を想像しながら、新しい建物への反映も含め日々の支援の改善にも取り組んだ。こうした取り組みの中で、長期入院から退院しサービスを再開した利用者様や病気治療の為日々の生活面で大きなサポートが必要となった利用者様に対して、看護部が主導となって職員の協力で適切な支援に努めることができた。

本年度は、県主催の虐待防止の研修を活用した職員研修会を実施した。こうした研修会を通じて第1回多良岳福祉園虐待防止標語コンテストを開催し、83作品もの応募があるなど職員の研鑽を図る機会となり、虐待のない開かれた施設と利用者様の権利擁護に努めることができた。

○第1回多良岳福祉園虐待防止コンテスト

最優秀賞 1作品「ゆとりもち 笑顔でつなぐ 支援の輪」
 優秀賞 2作品「おかしいと 思う気持ちと その勇氣」
 「ちょっとまで その行動 虐待じゃない」

(4) 働き甲斐のある施設づくり

園芸部門では、委託農家と協働した栽培、農産部門では空調機を更新し椎茸の品質と収量向上に取り組み、更には野草部門は計画的な野草茶生産・販売、工芸部門では日中活動で作製した組紐や利用者様のイラストなど、季節に応じた作品を施設内に飾り付けをするなど、本年度も各部門で掲げた事業計画達成のために、部門責任者が中心となり明るい施設づくりに取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度は、長期入院となっていた利用者様がサービスを再開したが、年度末に介護保険へ1名移行となり、定員60名に対し実人数58名の利用となった。

事業収益については障害福祉サービス報酬の減額改定により、昨年度の障害福祉等サービス事業収益235,503千円に対し229,930千円と、5,574千円の減収となった。なお今年も処遇改善特定加算の給付し、規程の整備を行い年度末に対象職員に特別一時金として支給をしている。

3. 日中事業活動

今年度は、園芸部門はさつま芋の不良、農産部門は年間通して収量上がらず、野草部門は労力不足、工芸部門は生活支援中心と厳しい生産活動となり、建替えの検討する状況下内需事業の推進もできず、就労支援事業収益は15,436千円と大幅の減収となった。なお利用者様の工賃については、一人当たり月平均9,738円の支給となった。

部門別の収入実績については、下記のとおりである。

	2021年度 (千円)	2020年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
農産部門収入	11,995	15,873	▲3,878	75.6
園芸部門収入	2,393	3,861	▲1,468	62.0
野草部門収入	978	1,632	▲654	60.0
工芸部門収入	70	37	33	189.1
合計	15,436	21,403	170	72.1
一人当たり工賃	(円/月) 9,738	(円/月) 12,450	▲2,712	78.2

4. 相談支援事業

本年度は、多良岳福祉園（特定除外施設）からの介護保険サービスへの移行へのサポートを実施している。制度の狭間として多くの課題解決に取り組み、相談支援事業所として今後に繋がる道筋を見出すことができた。今後も関係機関と連携を深めながら利用者様のニーズと必要とされる支援の橋渡しを行っていきたい。

2021年度 白石作業所 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

- (イ) 今年度も、新型コロナウイルスの世界的感染拡大に伴い就労事業の販売活動に大きな影響が出たが、売上げは昨年度より増収となった。白石町からの補助金などを活用しながら、昨年度を上回る工賃の確保ができた。又、県内にも感染者が拡大する中で、施設内の感染拡大防止に努め、安心・安全な施設づくりと職場環境づくりに努めると共に、就労継続B型事業所として施設資源を十分に活用しながら、利用者様のニーズに適った明るく元気よくをモットーに働き甲斐のある施設づくりに全職員一丸となって取り組んだ。そうした中で、今年も利用者様が自ら地域での販売活動等を通してご支援をいただいた皆様に支えられながら、地域とともに就労の喜びと生き甲斐をもって作業に従事し、円滑に施設運営を進めることができた。
- (ロ) 利用者様の処遇に関しては、「明るく楽しく」をモットーに、就業中における事故等が起きず作業の安全が守られるように、職員の意識向上の啓発に努めながら労働安全衛生管理の徹底に取り組んだ。又、利用者様と施設の安心・安全確保のため通報システムや災害時に即座に対応できるように職員研修等も行い、施設の保安管理を進めた。
- (ハ) 職員の資質向上については、個々人の研鑽と意識改革の喚起を促すために各種研修会の参加を計画したが、新型コロナ感染拡大の影響で研修会の開催がなかったため、Web研修会の参加により職員資質向上に努めた。又、働き方改革にも応じた職員処遇の大きな改善に努めた。

(2) 施設利用者様の豊かな人格形成

佐賀西部コロニー 3施設合同によるイベントは、ほぼ中止となったために各施設において独自に利用者処遇向上のために様々な活動を進めた。年末の「勤労感謝の会」や「歳末海水みかんセール」などの販売活動や映画会や食事会等により社会との交流の喜びを習得させるよう努めた。

(3) 働き甲斐のある施設づくり

法人運営理念の『互譲互助』精神と『マスク・手洗い・うがい・手指消毒でコロナに負けるな』を1年の目標として、挨拶が響きあう明るい職場作りに努め、創意工夫を重ねながら、より効率的な作業体制をつくり、安全で快適な働き甲斐のある施設づくりに努めた。

又、利用者様で作る互助会会議を毎月1日に開催して、自分達の意見で話し合いながら1ヶ月の目標を立て、皆さんが協力し合いながら明るく楽しい施設づくりに努めた。

2. 福祉事業活動

本年度の障害福祉サービス事業収入は、67,667千円となり前年度より1,481千円の減収となる決算となった。施設整備の中では、8月の大雨被害による建物共済保険金給付金や白石町からの補助金など8,324千円で、こだわり館の床改修工事、園芸ハウス改修工事、こだわり館エアコン、園芸用トラクター、業務用精米機、洗面台など11件の様々な施設整備を行い、施設内環境の整備と業務省力化による作業効率の改善を図った。

利用者様の利用状況については、1年間の増減はなく、定員30名、現員34名で推移した。

職員については、産休・育休取得者が1名、7月と1月に各々1名の育休復帰者があり、12月に1名の退職者があったが、基準上の職員配置内であり適切な運営を行うことができた。

3. 就労事業活動

本年度の就労事業収入は31,739千円となり、新型コロナウイルス感染拡大によるイベント中止や事業自粛等があったが、農産収入が増収し前年度に対し1,938千円の増収となった。道の駅や直売所の売上げが好調で、白石町からの補助金等を活用して工賃の確保に努めた。工賃については、目標工賃達成を利用者様・職員一体となって取り組み、2021年度は一人当たり月平均25,018円となり、前年度の24,669円に対して349円の増額となり、2021年度の目標工賃を達成することができた。

部門別の実績については、下記のとおりである。

部 門		年 度	2021年度 (円)	2020年度 (円)	差額 (円)	前年度比 (%)
農 産 収 入	アイス収入		4,265,594	2,778,968	1,486,626	130.1
	園芸収入		3,030,465	2,768,027	262,438	
	菓子収入		6,163,000	4,446,338	1,716,662	
	加工収入		2,948,114	2,267,810	680,304	
	こんにゃく収入		2,262,215	2,084,335	177,880	
小計			18,669,388	14,345,478	4,323,910	130.1
販売収入			13,070,552	15,455,954	▲ 2,385,402	84.6
合 計			31,739,940	29,801,432	1,938,508	106.5
1人当たり工賃			(円・月) 25,018	(円・月) 24,669	(円・月) 349	101.4